

教育目標『ふるさとを愛し 自ら考え たくましく生きる児童の育成』

～思いやりのある子・進んで学ぶ子・たくましい子～



松小だより

令和6年12月9日(月)

学校通信 第35号

発行 学校長

電話 027-393-1521

※個人情報の取扱にご留意ください。

〈松井田小ホームページ <http://www.annaka.ed.jp/shin-matsuida/>〉



人権強調月間を振り返って

～一人一人のやさしさで 笑顔の花を咲かせよう～

11月7日(木)にスタートした本年度の人権強調月間。5年生 ○○ ○○ さんの考案してくれたスローガンを合言葉に、校長による人権講話、高崎人権擁護委員協議会による人権教室、DVDの視聴、人権標語・作文・ポスターの作成、挨拶運動、令和6年度松井田小学校指定の「人権の歌」の合唱、人権劇や読み聞かせなど、様々な取組を行ってきました。そして、最終日の12月5日(木)に人権強調月間のまとめとなる集会を行いました。前半は、約1か月間の取組の成果を代表児童に発表してもらい、人権の歌「すてきな友達」を全員で合唱しました。こうした振り返りをとおして、「これからも自分も友達も大切にできる人になろう」と、全校児童で誓いを新たにしましたところでした。



人権集会で発表してくれた児童

分類	学年	児童名	作品
標語	1年	○○ ○○ さん	みんなだいすき ともだちのわを つくろう
		○○○○○ さん	ありがとう まほうのことばで がんばろう
	2年	○○ ○○ さん	やさしいことば えがおのサイクル つくってる
		○○ ○○ さん	あそぼうよ そのひとことで えがおになれる
	3年	○○ ○○ さん	あなたの笑顔が みんなの支えに なってるよ
		○○ ○○ さん	できなくてもいいんだよ あなたの笑顔が 一番だから
	4年	○○ ○○ さん	大丈夫 君は一人じゃ ないんだよ
		○○ ○○ さん	守ろうよ 自分のえがお 相手のえがお
	5年	○○○○○ さん	やさしさで みんなの心を かがやかそう
		○○ ○○ さん	ありがとう ごめんねいえる すてきだね
6年	○○ ○○ さん	あいさつで 新たな友達 広がる世界	
	○ ○○ さん	相談は 人を助ける 第一歩	
ポスター	4年	○○ ○ さん	右上タイトル横のポスターです。
作文	6年	○○ ○○ さん	題名「人権強調月間で学べたこと」 (要旨) 人権なんて5年間も学んできたのだから、今年はまだ大丈夫だと思っていた。しかし、まだまだ知らなかったことがたくさんあることに気付いた。 校長先生のお話は、100mを10秒で走る陸上選手と、病気や障害のある人が10mを30分かけて必死に歩くことは、同じくらいすごいことであるというものだった。相手の立場や状況を考えることの大切さを学んだ。 人権ビデオは、遊びがエスカレートしていじめになり、なかなか止められないというお話だった。今までの自分だったら、いじめられている子に関わる勇気はなかった。これからは、いじめられる子に親身になって助けてあげたいと思った。 人権教室では、いじめは法律で禁止されていることを初めて学んだ。法的に解決できるのは、とても安心感があり頼もしい。 ダン・オルヴェウス先生の言葉「いじめない」「仲間に入れる」「大人に言う」「助けを求める」を大切にしたい。とてもためになった人権強調月間だった。

本校ホームページで
スライドショー公開中!

校長人権講話



～奇跡のバックホーム・栄光のバックホーム～

元阪神タイガースの選手で、昨年28歳の若さで亡くなった横田慎太郎選手の物語「奇跡のバックホーム」と、その母親の気持ちを綴った「栄光のバックホーム」は、タイガースファンの間だけでなく、マスコミの間でも大変話題となりました。22歳で脳腫瘍を発症し、視力が回復せず2年後に引退を決意しますが、その最後の試合でセンターから見事なバックホームでランナーをタッチアウトにしました。引退後は、自分と同じように病氣と闘う人を勇気付けたいと講演活動を精力的に行います。そこで必ず伝えていたメッセージが、「つらいことや苦しいことがあっても逃げ出さず、前を向いて歩いていこう。自分に負けず、自分を信じて前に進もう。きっと幸せな日が訪れるはず。」でした。引退から4年後の昨年7月18日に天国へと旅立ちますが、遺志を継いだ猛虎軍団は、その年の9月14日にリーグ優勝を果たします。横田選手と同期の岩崎優投手が背番号24番のユニフォームを抱いて胴上げされるシーンは、全国の野球ファンの涙を誘いました。病魔と闘いながら必死に生き抜いた短くも充実した人生を紹介しながら、「自分の命や友達の命を大切にしていると胸を張って言えるか、ちょっとしたことであきらめたり投げ出したりしていないか」と子供たちに投げかけました。

さらに、29年前に15歳で亡くなった私の教え子の作文(少年の主張)を紹介しました。そこには、「いじめは絶対にいけないこと」と綴られています。私が初めて中学校の教員となり、初めて野球部の監督になった年のキャプテンでした。市大会で県大会出場を決めた時の胴上げシーン(右写真)が横田選手と重なります。この生徒は、夢に見ていた県大会出場を果たすことなく、中学3年生という若さでこの世を去りました。亡くなる直前に書かれたこの作文は、これからの子供たちへの指導に役立ててほしいと、母親から私に託されたものでした。



講話の冒頭では、大の阪神ファンである校長と2年担任の〇〇教諭が、応援グッズを身に付けて登場しました。まさか、こんな悲しいお話が続くとはだれも想像していなかったでしょう。自分の命と引き換えに、生きることの大切さを教えてくれた2人の野球選手。お話の最後には、横田選手が病氣と闘っているときにいつも聴いていたという曲、ゆずの「栄光の架橋」を教職員が合唱し、5年生の〇〇〇〇さんが考えてくれた本校の人権スローガンを唱和しました。体育館を後にする1年生からの言葉です。「校長先生のお話を聞いて泣きそうになった・・・」子供たちの心にはどんな思いが残ったのでしょうか・・・。



人権の歌合唱
「すてきな友達」



人権標語
発表



西川教諭 校長
人権講話

人権強調月間は終了しましたが、「人権を大切にする事」に終わりはありません。まだ幼い小学生ですから、この取組をしたからといって、嫌な思いをする児童が一人もいなくなると思っていません。日々の生活を振り返らせ、相手の立場になって考えさせ、繰り返し指導していくことが大切だと思っています。学校で気付かなかったことについては、ご家族の皆様から情報提供をいただき、心の傷が小さいうちに解決することができるように協力できたらと考えています。

最後になりますが、「人権学習ノート」を家庭に持ち帰っていると思います。お手数ですが、お子様の記述をお読みいただき、人権強調月間の取組を通して学んだことや感じたことを親子で話題にしてみてください。そして、ご家族からの温かいメッセージやコメントを記入していただけると、子供たちの励みとなり、互いの人権を大切にしていこうとする児童の心を育てる原動力になると思います。後日、私からも全員にコメントを記入したいと思っています。人権学習のまとめとして、学校と家庭とが一緒になって子供たちの心を動かしていきましょう。ご協力をよろしくお願いいたします。